1　生乳生産量と用途別処理量

(1)　生乳生産量

－　生乳の生産量は0.3%増加　－

生乳の生産量は731万3,530ｔで、前年に比べ２万4,303ｔ（0.3%）増加した。

図１　生乳の生産量の推移（全国）

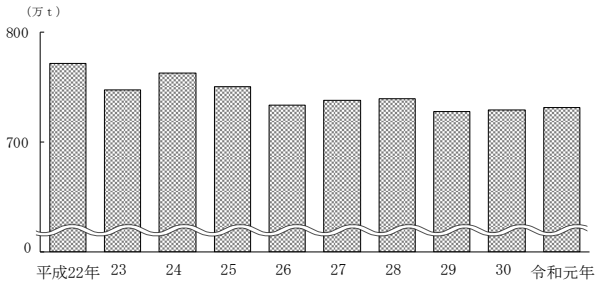
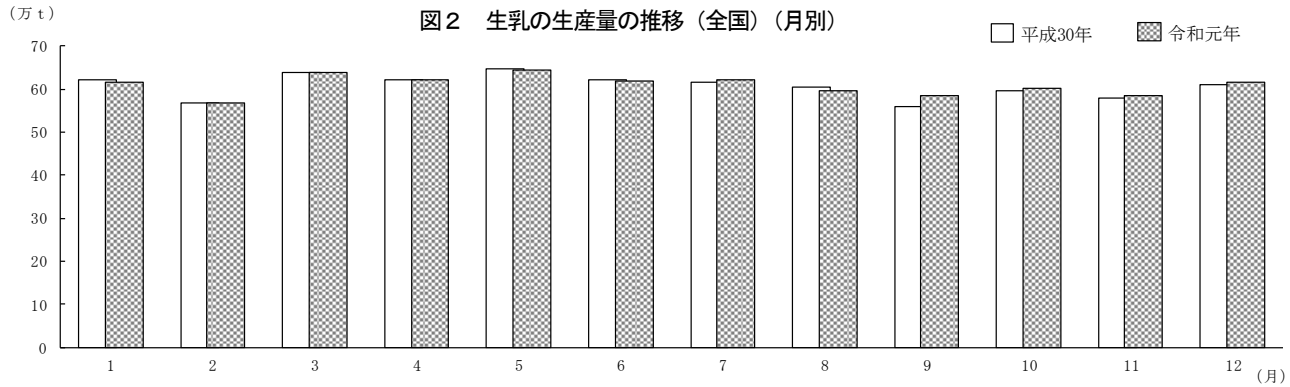


表１　生乳の生産量（全国、北海道・都府県別）

年　次	生乳生産量			対前年比		
	全国	北海道	都府県	全国	北海道	都府県
	t	t	t	%	%	%
平成30年	7,289,227	3,965,193	3,324,034	100.2	101.9	98.2
令和元年	7,313,530	4,048,197	3,265,333	100.3	102.1	98.2

図２　生乳の生産量の推移（全国）（月別）



(2)　全国農業地域別生乳生産量

－　北海道の生乳生産量シェアは55.4%　－

生乳の生産量を全国農業地域別にみると、北海道が404万8,197ｔ（全国に占める割合55.4%）で最も多く、次いで関東が99万1,738ｔ（同13.6%）、九州が61万4,605ｔ（同8.4%）の順となっている。

図３　生乳生産量シェア（全国農業地域別）

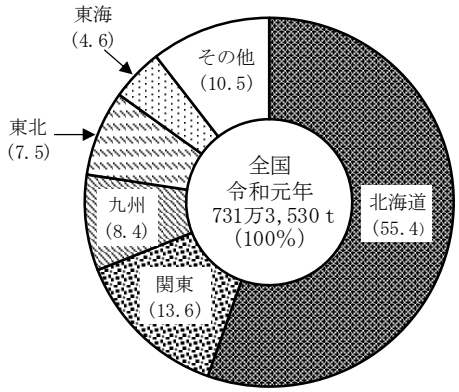


表２　生乳の生産量（全国農業地域別）

単位：ｔ

年次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成30年	7,289,227	3,965,193	556,714	79,301	1,012,647	110,965	345,716	163,192	288,914	116,136	626,603	23,846
令和元年	7,313,530	4,048,197	548,641	75,347	991,738	107,128	339,838	158,520	293,199	113,137	614,605	23,180
対前年比(%)	100.3	102.1	98.5	95.0	97.9	96.5	98.3	97.1	101.5	97.4	98.1	97.2

(3) 用途別処理量

― 牛乳等向けは前年並み、乳製品向けは0.8%増加 ―

生乳の処理量を用途別にみると、牛乳等向け処理量は399万9,655ｔで前年並み、乳製品向け処理量は326万9,669ｔで、前年に比べ２万6,394ｔ（0.8%）増加した。

図４　牛乳等向け及び乳製品向け処理量の推移（全国）

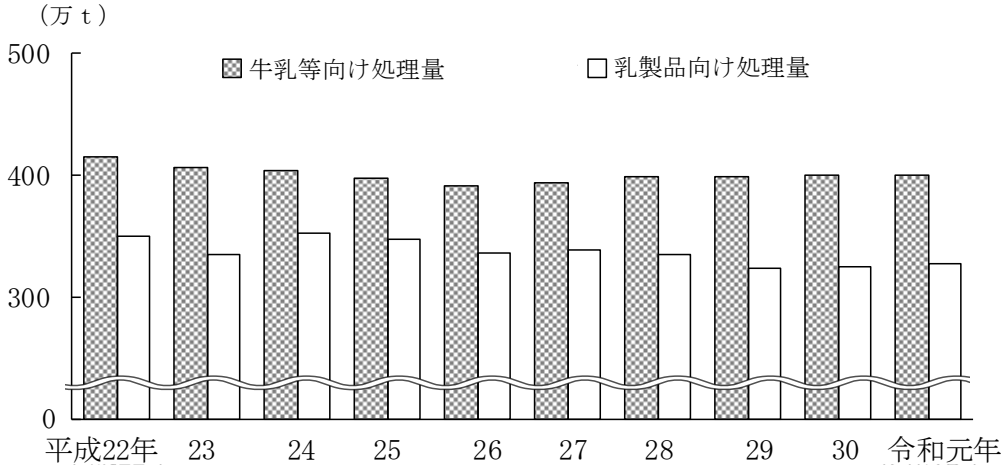


表３　生乳の用途別処理量（全国）

単位：ｔ

年　次	生乳生産量	用途別処理量				
		牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	その他	欠減
平成30年	7,289,227	3,999,805	350,351	3,243,275	46,147	9,918
令和元年	7,313,530	3,999,655	346,127	3,269,669	44,206	10,258
対前年比（%）	100.3	100.0	98.8	100.8	95.8	103.4

2　牛乳等生産量

(1)　飲用牛乳等生産量

－　牛乳の生産量は0.6%増加　－

飲用牛乳等の生産量をみると、牛乳の生産量は316万440klで、前年に比べ1万8,752kl（0.6%）増加し、加工乳・成分調整牛乳の生産量は41万1,079klで、前年に比べ3,252kl（0.8%）減少した。

図５　牛乳及び加工乳・成分調整牛乳の生産量の推移（全国）

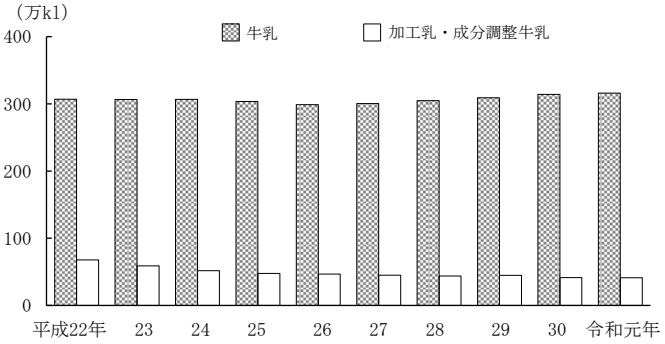
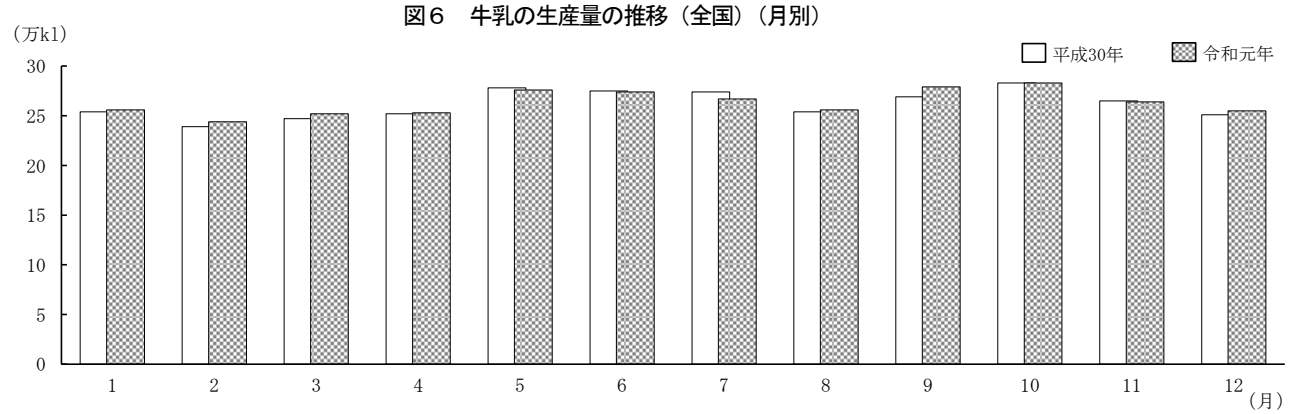


表４　飲用牛乳等の生産量（全国）

単位：kl

年　次	飲用牛乳等					
	計	牛乳		加工乳・成分調整牛乳		
			業務用		業務用	成分調整牛乳
平成30年	3,556,019	3,141,688	326,726	414,331	49,866	317,415
令和元年	3,571,519	3,160,440	322,321	411,079	58,478	288,215
対前年比（%）	100.4	100.6	98.7	99.2	117.3	90.8

図６　牛乳の生産量の推移（全国）（月別）



(2)　全国農業地域別飲用牛乳等生産量

－　関東の飲用牛乳等生産量シェアは30.2%　－

飲用牛乳等の生産量を全国農業地域別にみると、関東が107万9,126kl（全国に占める割合30.2%）で最も多く、次いで北海道が54万6,980kl（同15.3%）、近畿が38万9,919kl（同10.9%）の順となっている。

図７　飲用牛乳等生産量シェア（全国農業地域別）

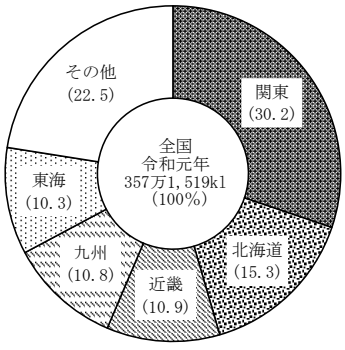


表５　飲用牛乳等生産量（全国農業地域別）

単位：kl

年　次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成30年	3,556,019	553,875	247,141	81,410	1,056,671	119,936	354,262	394,306	261,106	80,378	380,314	26,620
令和元年	3,571,519	546,980	241,314	77,129	1,079,126	116,211	366,343	389,919	261,675	81,348	386,049	25,425
対前年比（%）	100.4	98.8	97.6	94.7	102.1	96.9	103.4	98.9	100.2	101.2	101.5	95.5

(3) 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料の生産量

乳飲料の生産量は115万7,310kl、はっ酵乳の生産量は112万6,441kl、乳酸菌飲料の生産量は11万7,811klであった。

図８　乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量の推移（全国）

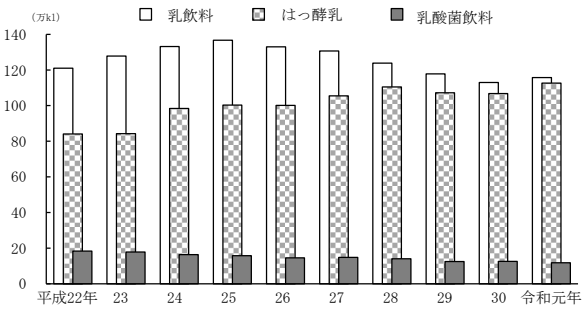


表６　乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料の生産量（全国）

単位：kl

年　次	乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
平成30年	1,129,372	1,067,820	125,563
令和元年	1,157,310	1,126,441	117,811

注：　令和元年の乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料の生産量については、一部調査客体の生産量を追加計上しデータを補完した（令和５年５月31日訂正）。
なお、平成30年以前のデータは把握が困難であり補完していないため、前年比較などの利用に当たっては留意されたい（以下同じ。）。

図９　乳飲料の生産量の推移（全国）（月別）

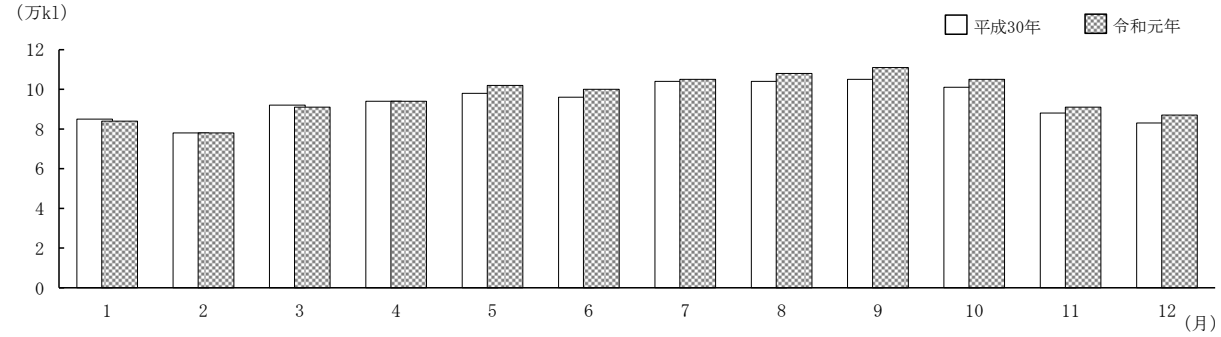


図10　はっ酵乳の生産量の推移（全国）（月別）

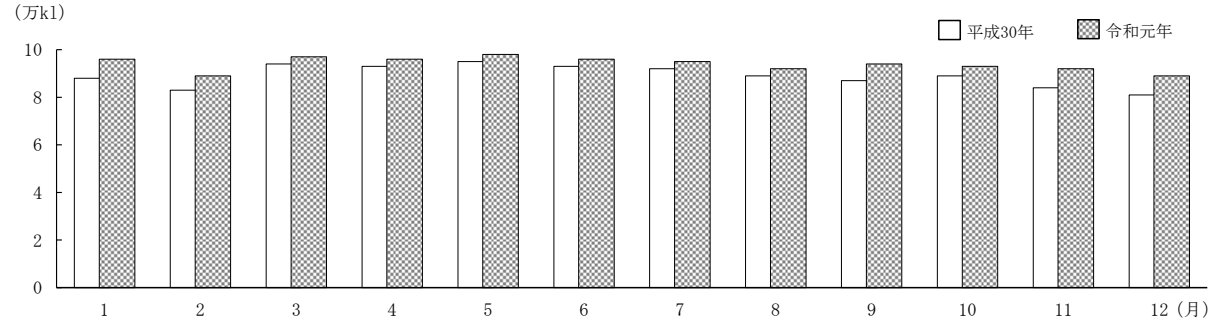
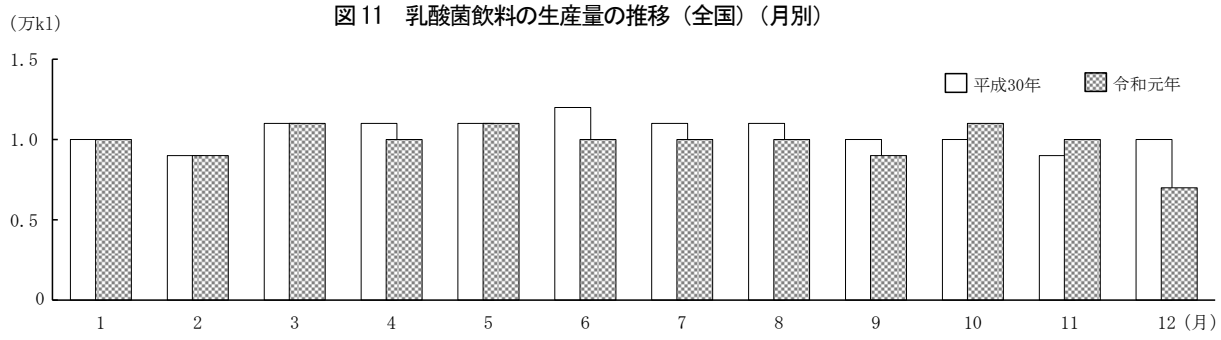


図11　乳酸菌飲料の生産量の推移（全国）（月別）



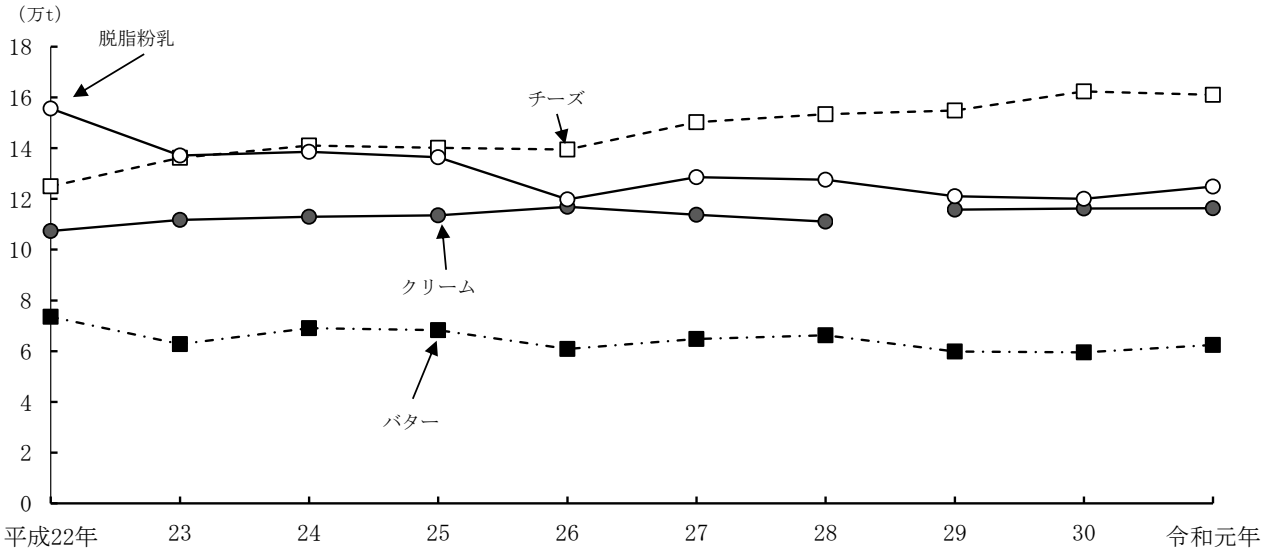
３　乳製品生産量

－　チーズの生産量は0.9%減少　－

主な乳製品の生産量をみると、脱脂粉乳は12万4,900ｔ、バターは６万2,441ｔ、クリームは11万6,297ｔで、前年に比べそれぞれ4,896ｔ（4.1%）、2,942ｔ（4.9%）、107ｔ（0.1%）増加した。

また、チーズは16万880ｔで、前年に比べ1,480ｔ（0.9%）減少した。

図12　主要乳製品の生産量の推移（全国）



クリームの生産量について、平成28年12月の調査までは、「クリームを生産する目的で脂肪分離したもの」に限定していたところであるが、29年１月以降は、バター、チーズを製造する過程で製造されるクリーム及び飲用牛乳等の脂肪調整用の抽出クリームのうち、製菓、製パン、飲料等の原料や家庭用として販売するものを含めている。

このため、28年以前と29年とでは、数値の連続性が保てないことに留意されたい。

表７　乳製品の生産量（全国）

年 次	全粉乳	脱脂粉乳	調製粉乳	ホエイパウダー	バター	クリーム
	t	t	t	t	t	t
平成30年	9,795	120,004	29,840	19,367	59,499	116,190
令和元年	9,994	124,900	29,282	19,371	62,441	116,297
対前年比（%）	102.0	104.1	98.1	100.0	104.9	100.1

年 次	チーズ	直接消費用ナチュラルチーズ	加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖れん乳	乳脂肪分８%以上のアイスクリーム
	t	t	t	t	t	kl
平成30年	162,360	29,535	32,412	461	3,845	148,253
令和元年	160,880	29,955	34,203	419	3,831	146,909
対前年比（%）	99.1	101.4	105.5	90.9	99.6	99.1

図 13　脱脂粉乳の生産量の推移（全国）（月別）

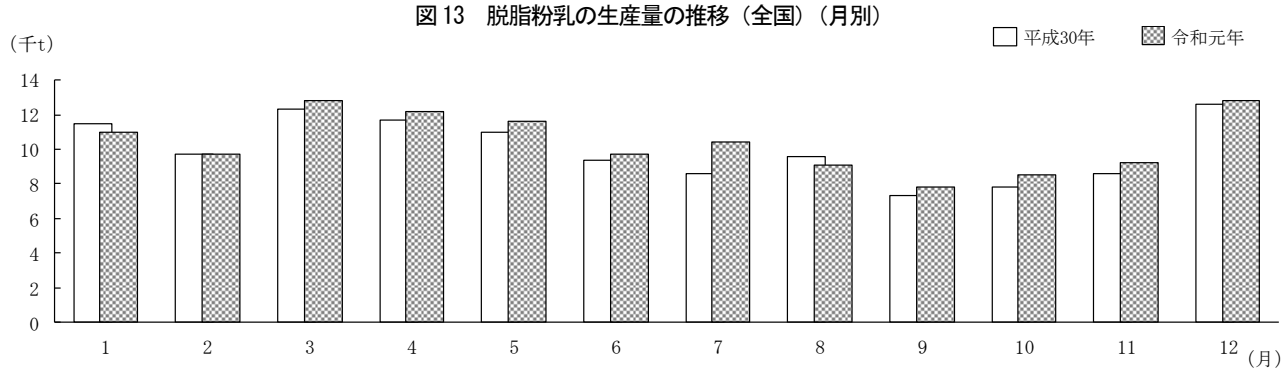


図 14　バターの生産量の推移（全国）（月別）

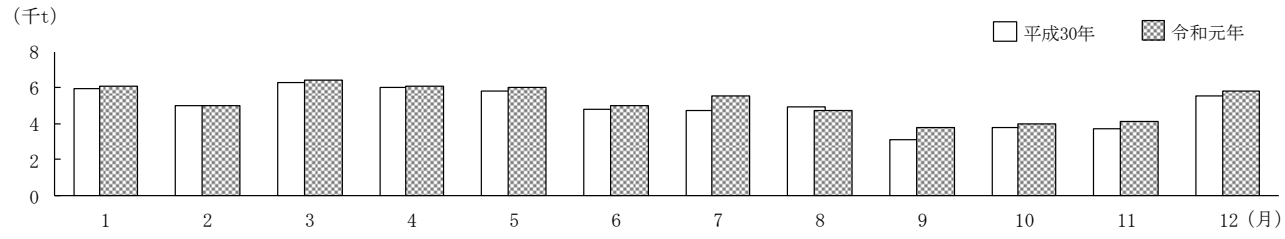


図 15　クリームの生産量の推移（全国）（月別）

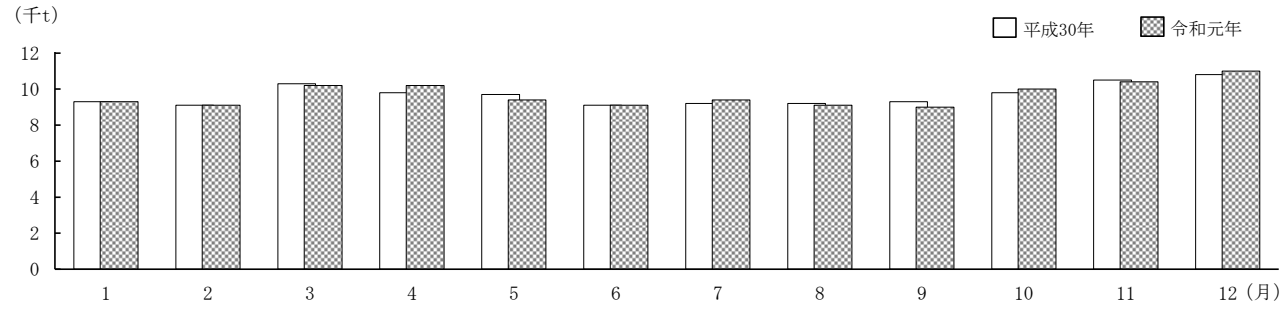
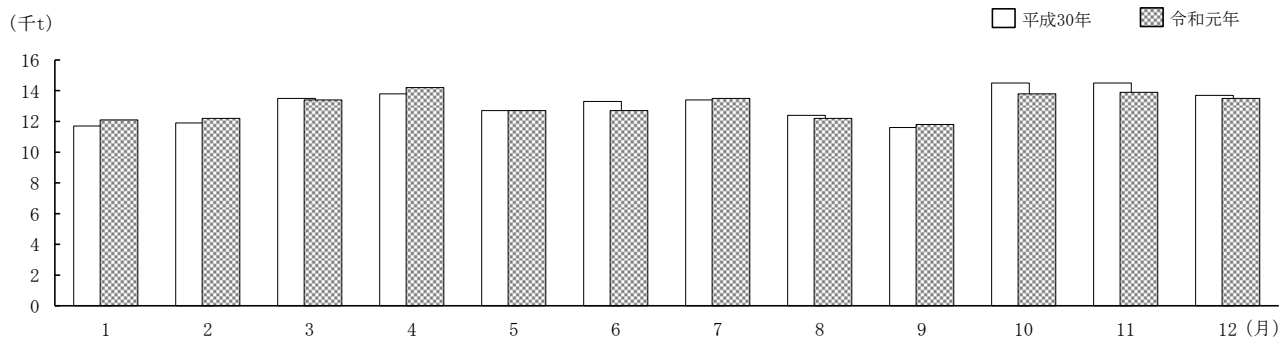


図 16　チーズの生産量の推移（全国）（月別）



4　牛乳処理場及び乳製品工場数

(1)　処理場・工場数

－　牛乳処理場・乳製品工場数は 563 工場　－

令和元年 12 月 31 日現在の牛乳処理場・乳製品工場（以下「工場」という。）数は 563 工場で、前年に比べ８工場減少した。

生乳を処理した工場を製造種別にみると、牛乳処理場が 368 工場で、前年に比べ５工場減少し、乳製品工場が 139 工場で、７工場減少した。

また、生乳処理量規模別にみると、１日当たり２ｔ以上の工場数は、牛乳処理場が 195 工場で、前年に比べ１工場減少し、乳製品工場が 38 工場で前年に比べ２工場減少した。

図 17　生乳処理量規模別工場数の推移
（全国）（12 月 31 日現在）

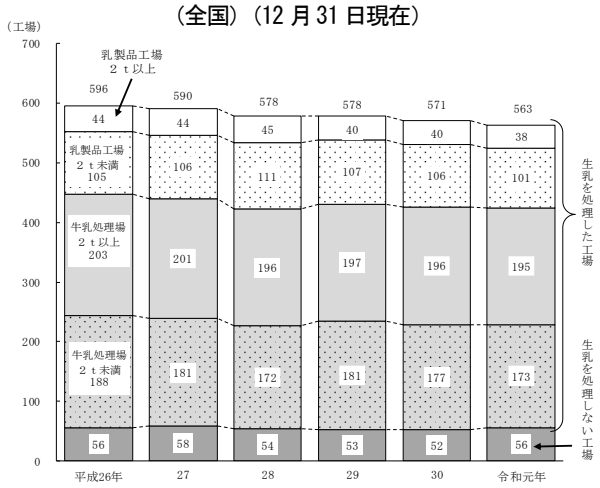


表８　生乳処理量規模別工場数（全国）（12 月 31 日現在）

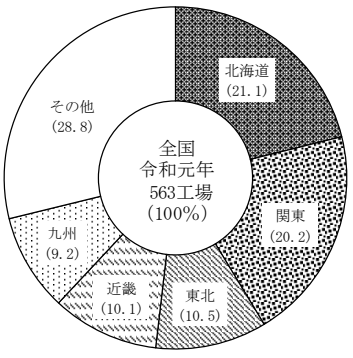
単位：工場

区分	合計	生乳を処理した工場							生乳を処理しない工場
		計	牛乳処理場			乳製品工場			
			小計	２ｔ未満	２ｔ以上	小計	２ｔ未満	２ｔ以上	
平成30年	571	519	373	177	196	146	106	40	52
令和元年	563	507	368	173	195	139	101	38	56
対前年差	△ 8	△ 12	△ 5	△ 4	△ 1	△ 7	△ 5	△ 2	4
構成割合（%）									
平成30年	100.0	90.9	65.3	31.0	34.3	25.6	18.6	7.0	9.1
令和元年	100.0	90.1	65.4	30.7	34.6	24.7	17.9	6.7	9.9

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある（図18において同じ）。

ここでいう牛乳処理場及び乳製品工場とは、12 月における１日当たりの生乳の平均処理量を基に区分し、生乳を主として牛乳等の生産に仕向けた工場を「牛乳処理場」、主として乳製品の生産に仕向けた工場を「乳製品工場」とした。

図 18　全国農業地域別工場シェア
（12 月 31 日現在）



(2)　全国農業地域別工場数

－　北海道の工場シェアは 21.1%　－

全国農業地域別の工場数をみると、北海道が 119 工場（全国に占める割合 21.1%）で最も多く、次いで関東が 114 工場（同 20.2%）、東北が 59 工場（同 10.5%）の順となっている。

表９　全国農業地域別工場数（12 月 31 日現在）

単位：工場

年 次	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
平成30年	571	118	62	36	115	31	50	55	35	9	53	7
令和元年	563	119	59	33	114	30	50	57	33	9	52	7
対前年差	△ 8	1	△ 3	△ 3	△ 1	△ 1	0	2	△ 2	0	△ 1	0

(3) 製造品目別処理場・工場数

― 牛乳を製造した工場は 364 工場 ―

令和元年１月から 12 月に飲用牛乳等を製造した工場数は 366 工場で、このうち牛乳を製造した工場数は 364 工場であった。

また、加工乳・成分調整牛乳を製造した工場数は 106 工場であり、はっ酵乳、乳飲料、乳酸菌飲料を製造した工場数は、それぞれ 262 工場、213 工場、38 工場であった。

乳製品を製造した工場数は 322 工場で、このうちチーズを製造した工場数は 177 工場、乳脂肪分８％以上のアイスクリームを製造した工場数は 122 工場であった。

単位：工場

年次	飲用牛乳等							乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
	計	牛乳	業務用	学校給食用	加工乳・成分調整牛乳	業務用	成分調整牛乳			
平成30年	373	371	156	195	109	15	61	216	257	38
令和元年	366	364	162	194	106	15	60	213	262	38
対前年差	△ 7	△ 7	6	△ 1	△ 3	0	△ 1	△ 3	5	0

注：内訳は各製品を製造した工場数であり、内訳と合計は一致しない（表 11 において同じ。）。

表 11　乳製品を製造した工場数（全国）（12 月 31 日現在）

単位：工場

年次	乳製品											
	計	粉乳			バター	クリーム	チーズ	直接消費用ナチュラルチーズ	れん乳			乳脂肪分８％以上のアイスクリーム
		全粉乳	脱脂粉乳	調製粉乳					加糖れん乳	無糖れん乳	脱脂加糖れん乳	
平成30年	319	9	26	5	71	77	175	154	21	3	11	126
令和元年	322	9	26	5	70	75	177	157	22	3	10	122
対前年差	3	0	0	0	△ 1	△ 2	2	3	1	0	△ 1	△ 4